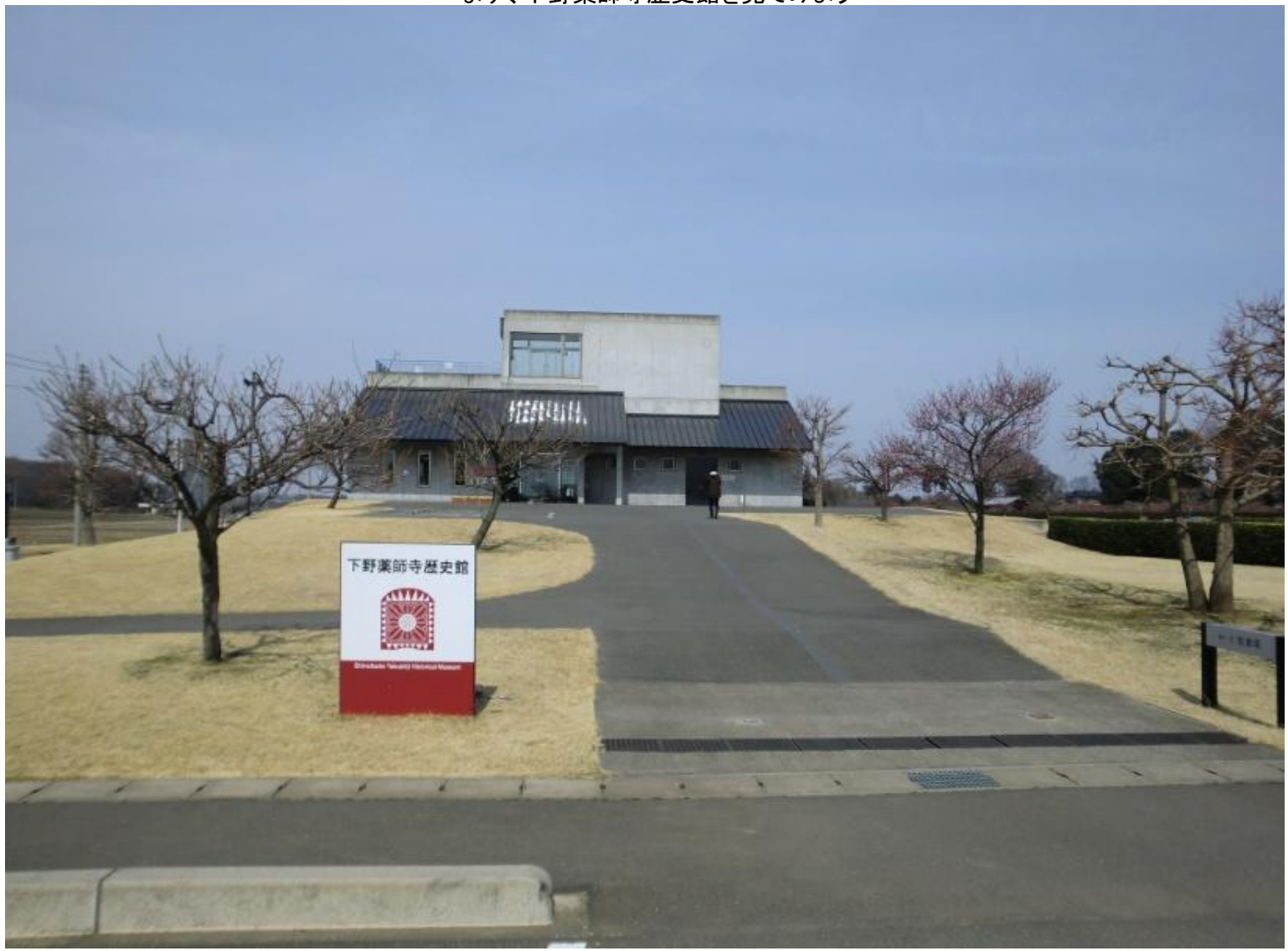
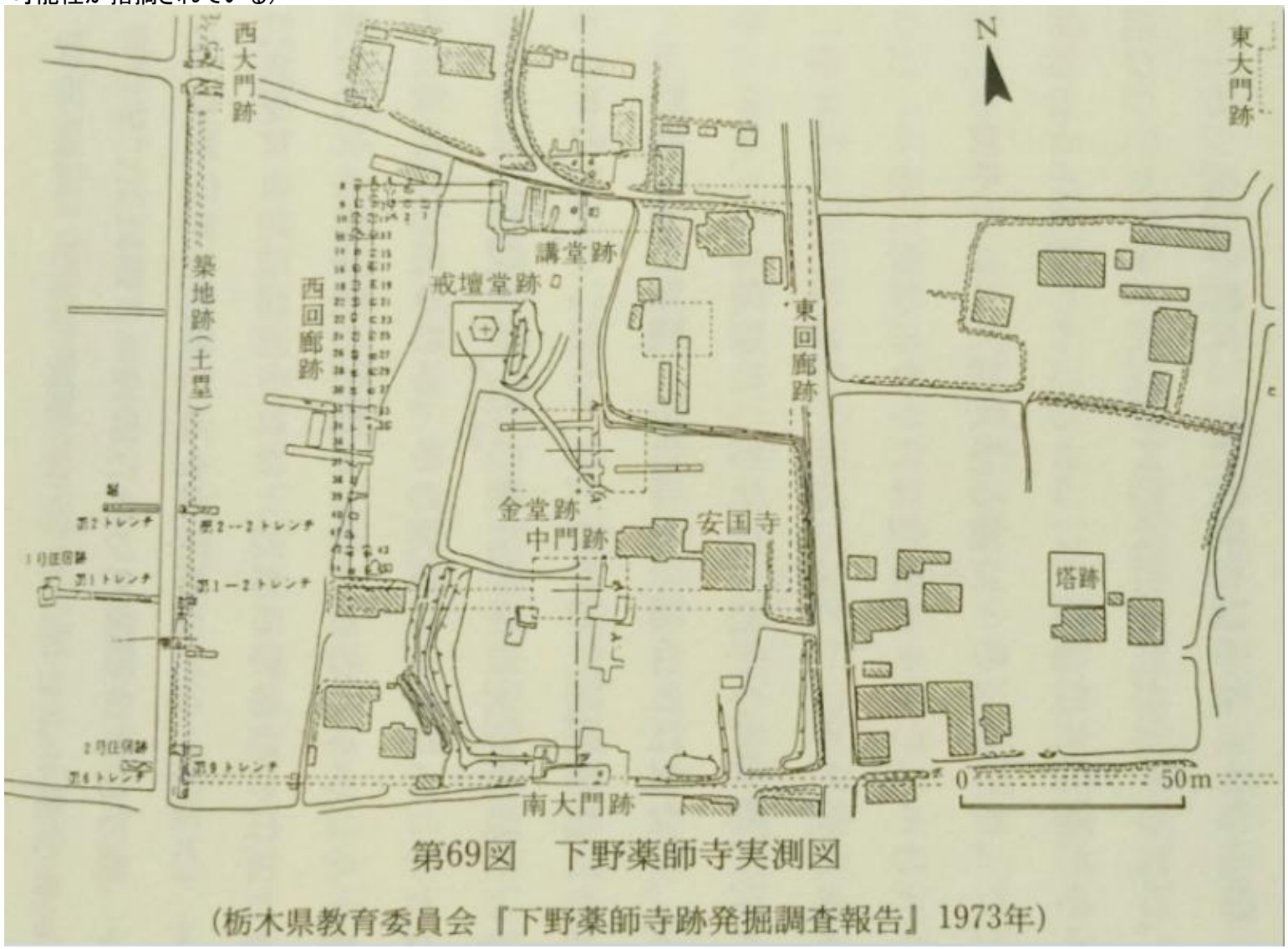
下野薬師寺跡（下野市）

まず、下野薬師寺歴史館を見てみよう



正面遠方の木々の辺りが下野薬師寺跡

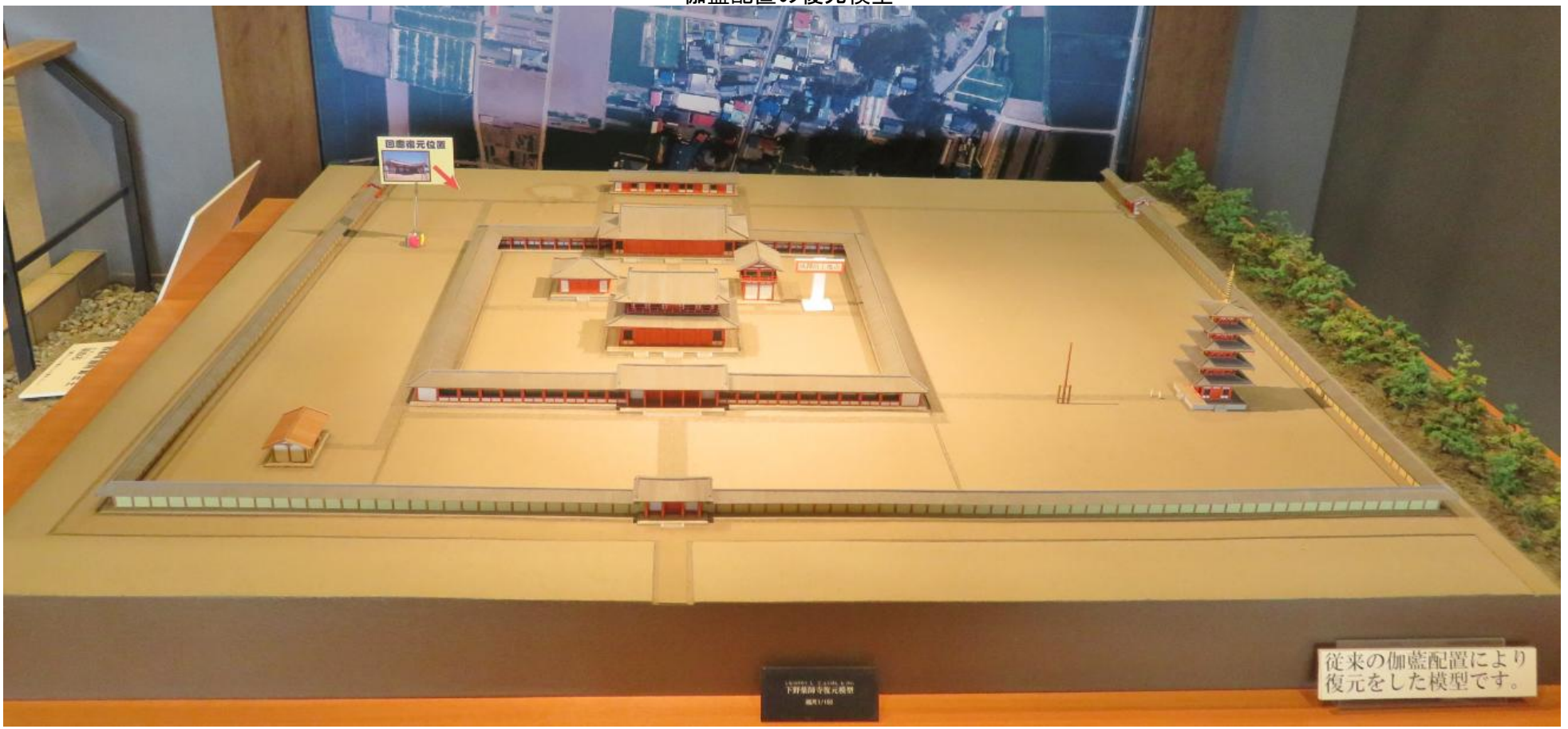
下野薬師寺実測図/講堂跡の下（南側）に戒壇堂跡の表記が見える/現在、寺域の一部が安国寺の境内となっている/東回廊跡の右手（東側）には再建された塔跡の表記が見える/金堂跡と記された所には、当初の塔があったとも云われる（一塔三金堂形式の可能性が指摘されている）



第69図　下野薬師寺実測図

（栃木県教育委員会『下野薬師寺跡発掘調査報告』1973年）

伽藍配置の復元模型



俯瞰図

下野薬師寺の伽藍

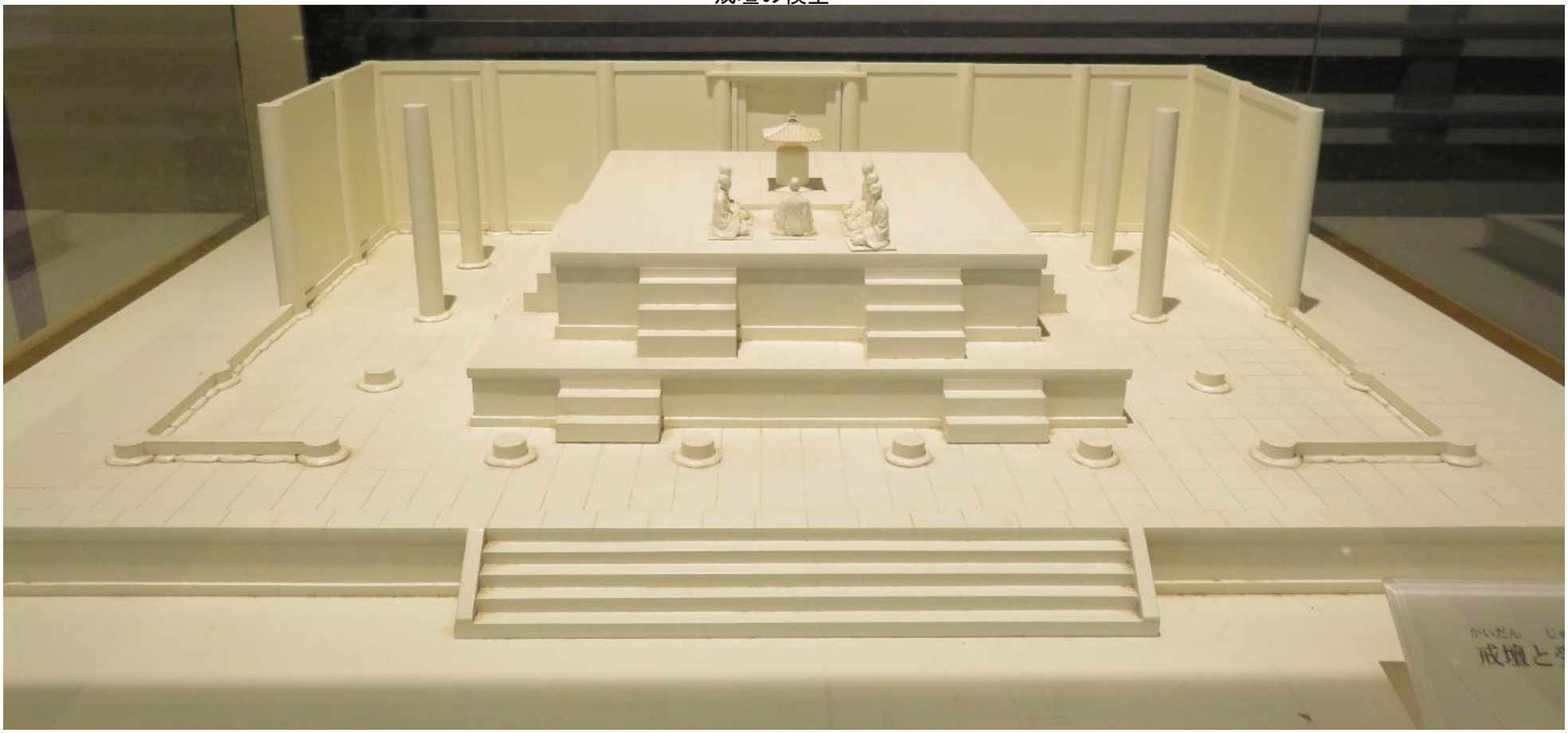
下野薬師寺は、7世紀末に創建され、三戒壇の一つが置かれた東国筆頭の寺院。8世紀前半に改修された伽藍は、地方寺院としては破格の規模で、中央の国大寺に比肩するものであった。この模型は9世紀ころの隆盛時を想定したものである。

広大な寺院地を瓦葺板塀で囲い、その西寄りに中心伽藍を置く。南門、中門、金堂、講堂を南北一直線に配し、中門から出た回廊が講堂に結ぶ配置は、下野薬師寺独特のものであった。金堂の北西と北東にも基壇建物が配置される。講堂の北にも講堂と同規模の基壇建物がある。東回廊の東約70mにある五重塔は、9世紀代に再建されたもので、もともとは回廊内にあったらしい。東回廊と塔のほぼ中間には幢竿が立てられていた。戒壇跡はいまだに見つかっていない。

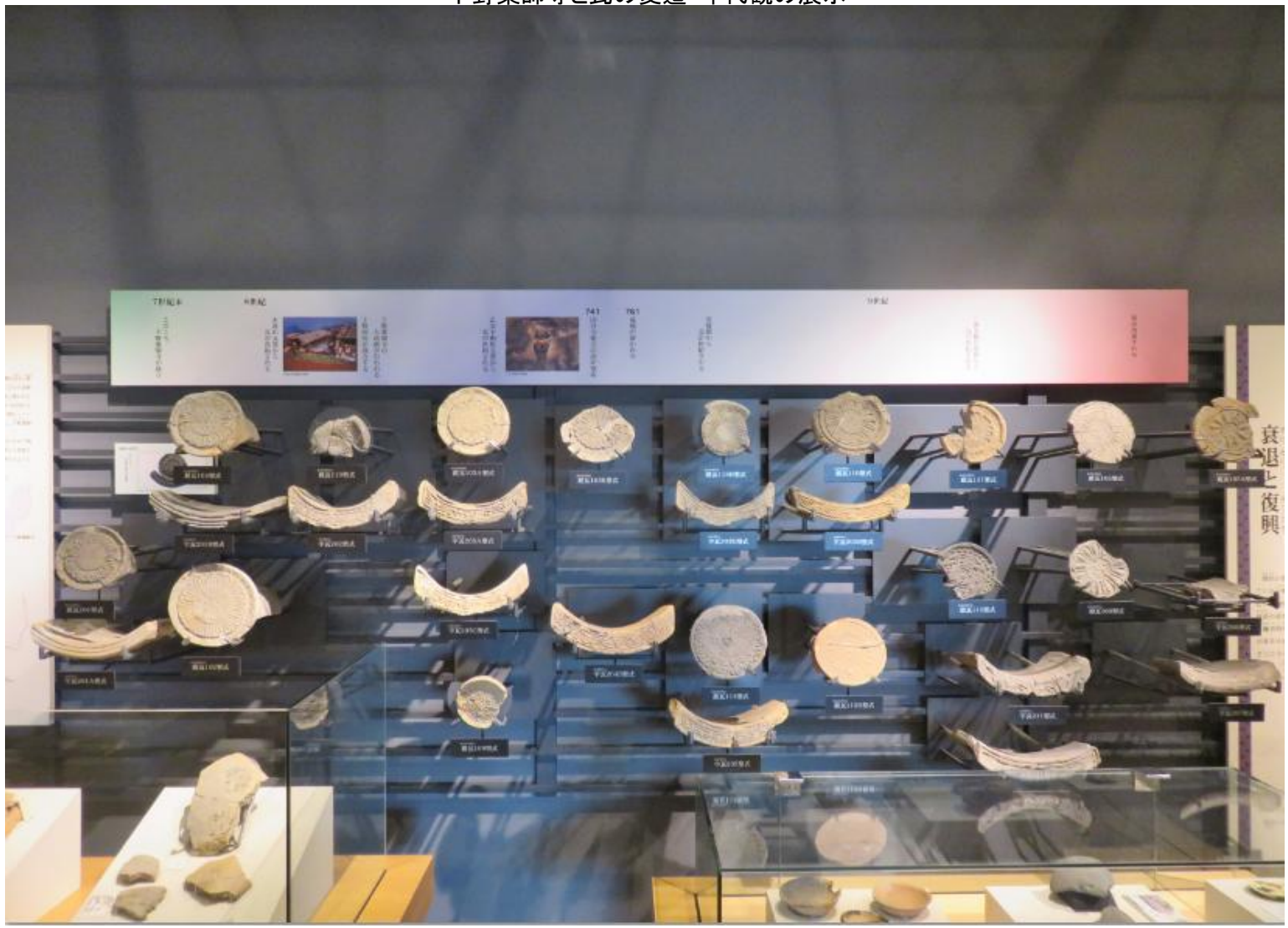
戒壇についての説明

ここに天下の三戒壇の一つがある

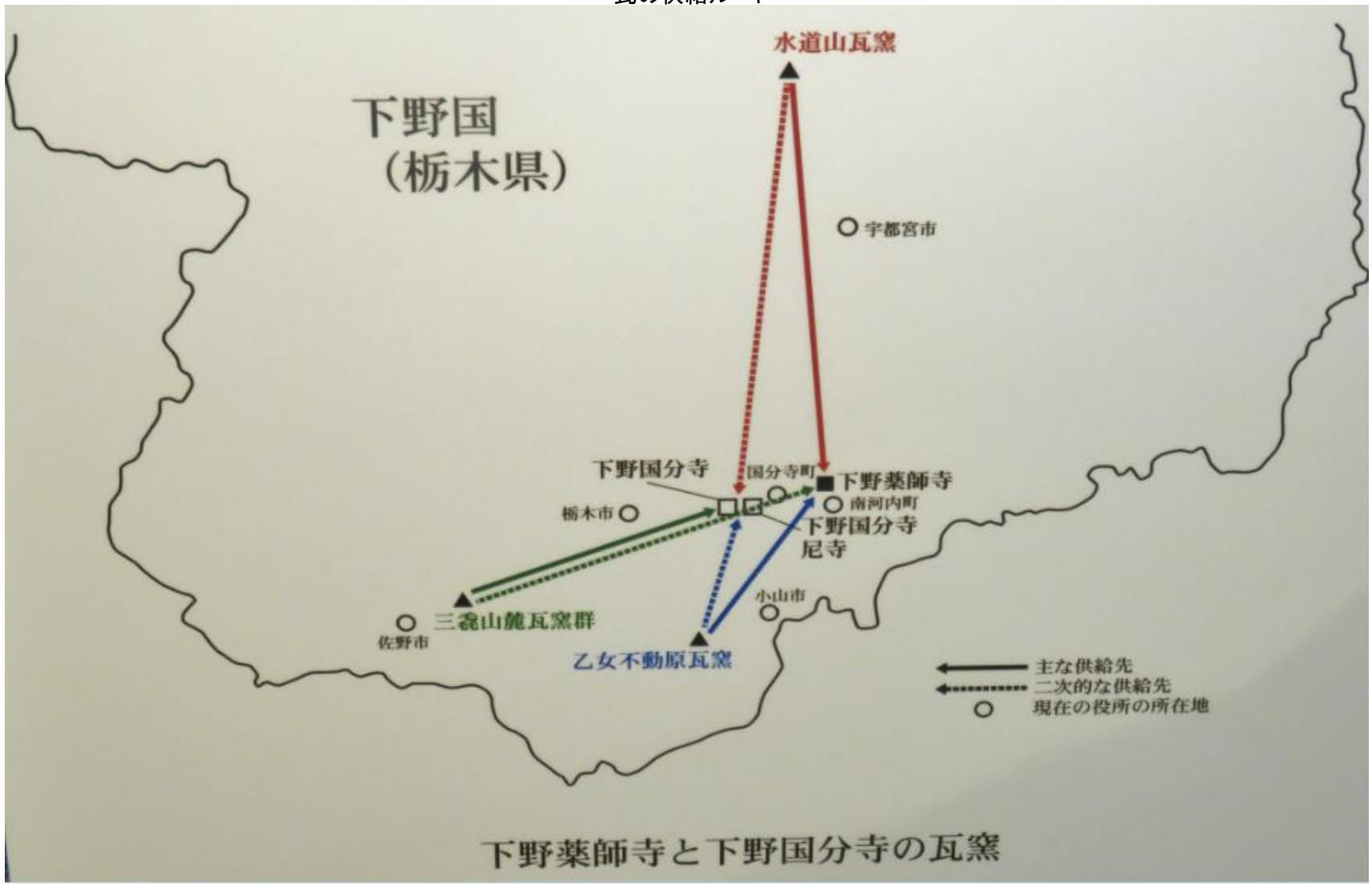
戒壇の模型



下野薬師寺と瓦の変遷・年代観の展示



瓦の供給ルート


下野国
（栃木県）
水道山瓦窯
宇都宮市
下野国分寺
国分寺町
下野薬師寺
南河内町
栃木市
下野国分寺
尼寺
小山市
三毳山麓瓦窯群
佐野市
乙女不動原瓦窯
主な供給先
二次的な供給先
現在の役所の所在地
下野薬師寺と下野国分寺の瓦窯

下野薬師寺関連遺跡の展示

近くを東山道が通っている

下野薬師寺歴史館の屋上から下野薬師寺跡のエリアを見たところ

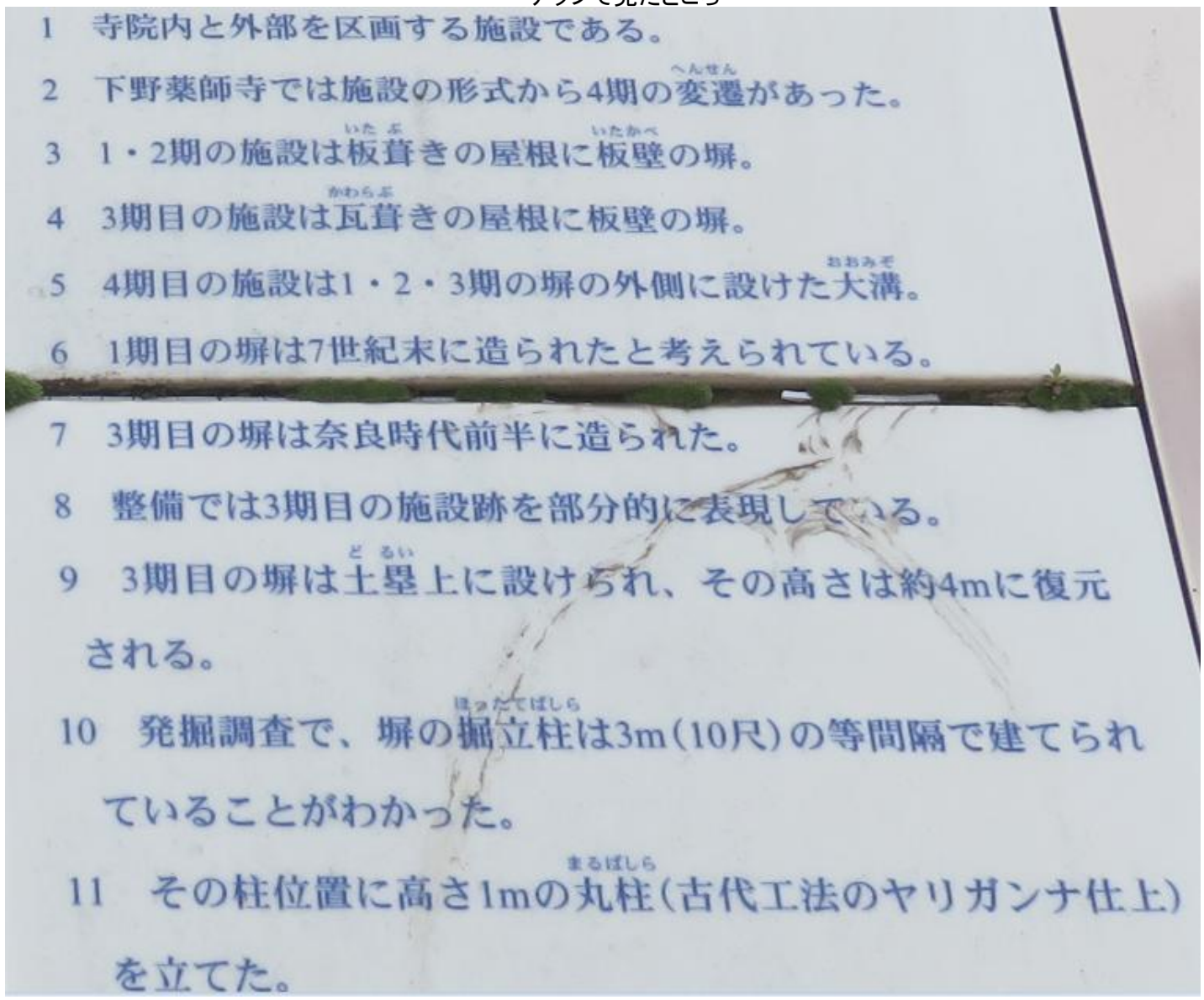
さて、歩いて下野薬師寺跡へ向かう

正面遠方に見える屋根は安国寺本堂

左手に説明坂がある

外郭の板塀跡が植栽帯で表示されている

アップで見たところ


1 寺院内と外部を区画する施設である。
2 下野薬師寺では施設の形式から4期の変遷があった。
3 1・2期の施設は板葺きの屋根に板壁の塀。
4 3期目の施設は瓦葺きの屋根に板壁の塀。
5 4期目の施設は1・2・3期の塀の外側に設けた大溝。
6 1期目の塀は7世紀末に造られたと考えられている。
7 3期目の塀は奈良時代前半に造られた。
8 整備では3期目の施設跡を部分的に表現している。
9 3期目の塀は土塁上に設けられ、その高さは約4mに復元される。
10 発掘調査で、塀の掘立柱は3m(10尺)の等間隔で建てられていることがわかった。
11 その柱位置に高さ1mの丸柱(古代工法のヤリガンナ仕上)を立てた。

この方向は寺域の西側の板塀跡

この方向は寺域の南側の板塀跡を東側から西方向に見たところ

ここから少し前方に行った所が南大門跡

左手を見ると、正面遠方に復元された北西角部分の回廊が見えるが、このラインが西回廊跡

左手に目をやると史跡総合説明板がある

更に左手を見ると、植栽帯が板塀のラインを表している

これが史跡総合説明板

アップで見たところ

総合説明施設

この説明板は、下野薬師寺跡と周辺を表示しています。方位は遺跡と一致させており、この説明板の上方向が北になります。

縮尺は1/100で、40cmの正方形陶板を組み合わせて作っています。40cmの実際の長さは40mで、表示板全体では東西600m、南北780mになります。

この説明施設は次の内容の表示や説明をしています。

案内図

1　下野薬師寺の伽藍配置と現在の道路などを表示しています。

2　下野薬師寺の寺域は外郭施設の塀に囲まれた範囲で、東西250m、南北350mです。茶色に着色してあります。

下野薬師寺の寺院地は広大でした。表示板の広さと実際の整備地区や周辺地区の広さを比べてみてください。

3　地形の様子がわかるように、高さ1mごとの等高線内を色分けして表示してあります。

4　立地地形や関連遺跡、遺跡・遺構の説明板を配置しています。

◀ 下野薬師寺跡周辺の史跡マップ

県南のこの地域は、鬼怒川・田川と姿川・思川にはさまれた台地上にあり、古代の政治・文化の中心地、交通の要衝地でした。したがって、古代の重要な遺跡が集中しています。

この図は　　や周辺地域の史跡案内図です。多くの史跡がありますので、訪れてみてください。

下野薬師寺跡の地形
この地域は、南北に流れる東側の田川と西側の浅い侵食谷にはさまれた洪積台地となっています。
下野薬師寺は、この南北に細長く、北から南に緩く傾斜する半島状の台地のほぼ中央にあります。伽藍の建物は低地から見上げられ、人々の目にたいへん壮大に映ったことでしょう。
表示板の色分けの等高線は、その地形の様子を表しています。
と下野薬師寺
上方が北。●印が下野薬師寺跡、右下に
中央左下から右上に新4号国道が通る。
薬師寺台地と神積地
左側が台地、右側が侵食谷

下野薬師寺の関連遺跡

下野薬師寺の造営や運営に関わった人々は、寺の周辺に集落をつくり、暮らしていました。

寺の南約1,400 mの大集落跡「薬師寺南遺跡」や歴史館建設地の集落跡「落内遺跡」は　寺の造営、改修の工人、寺の下働きの人々の住む集落であったと考えられます。

これらの遺跡から、寺の造営や運営にともない、たいへん多くの人々が、寺の周辺で暮らしていたことがうかがわれます。

8世紀初頭～9世紀代の竪穴住居跡120軒などが見つかった。下野薬師寺の創建以降、集落は次第に南へと広がっていった。

薬師寺南遺跡航空写真（南から）

落内遺跡

下野薬師寺の周囲に存在する集落で、7世紀後半～10世紀代の竪穴住居跡100軒などが見つかった。

竪穴住居跡（西から）

長い時期にわたり同じ場所に何軒もの住宅がつくり続けられた。

角付土器

上の写真の住居跡から見つかった土器。写真の竪穴跡右側上部（丸囲み）に土器が見える。発見例のきわめて少ない土器である。

それでは寺域を回ってみることにする

前方が西回廊のライン/回廊は手前で右手（東方向）に折れ、右手に少し行った所が中門跡となる/礎石が復元されている

回廊の倒壊跡

Remains of Kai-ro (Roofed Semi-Enclosed Corridor) Collapsed

寺院西面遺構配置と写真位置

川廊に葺かれた瓦

葺かれたままの状態の男瓦と女瓦
(写真位置❷)

1　回廊は、金堂など寺院の中心となる建築群を囲み型的空間を構成する。通路や儀式における僧侶の座としても使われた。

2　南西角の調査で屋根に葺かれていた大量の瓦が発見された。

3　男瓦と女瓦が屋根上で葺かれていたままの状態のものもあった。これは回廊が倒壊した状況を示すものである。

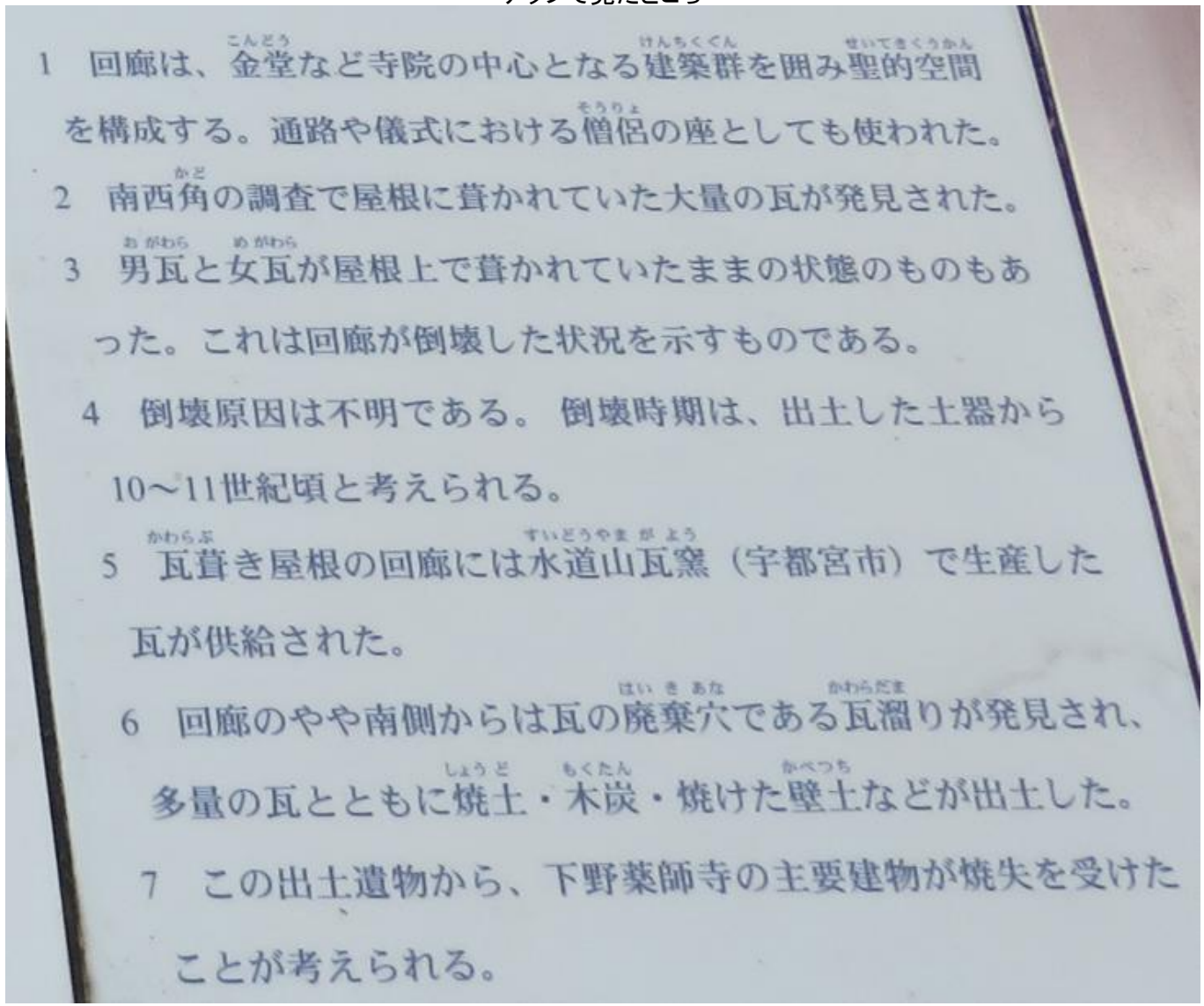
4　倒壊原因は不明である。倒壊時期は、出土した土器から10～11世紀頃と考えられる。

5　瓦葺き屋根の回廊には水道山瓦窯（宇都宮市）で生産した瓦が供給された。

6　回廊のやや南側からは瓦の廃棄穴である瓦溜りが発見され、多量の瓦とともに焼土・木炭・焼けた壁土などが出土した。

7　この出土遺物から、下野薬師寺の主要建物が焼失を受けたこと等が考えられる。

アップで見たところ


1 回廊は、金堂など寺院の中心となる建築群を囲み聖的空間を構成する。通路や儀式における僧侶の座としても使われた。
2 南西角の調査で屋根に葺かれていた大量の瓦が発見された。
3 男瓦と女瓦が屋根上で葺かれていたままの状態のものもあった。これは回廊が倒壊した状況を示すものである。
4 倒壊原因は不明である。倒壊時期は、出土した土器から10～11世紀頃と考えられる。
5 瓦葺き屋根の回廊には水道山瓦窯（宇都宮市）で生産した瓦が供給された。
6 回廊のやや南側からは瓦の廃棄穴である瓦溜りが発見され、多量の瓦とともに焼土・木炭・焼けた壁土などが出土した。
7 この出土遺物から、下野薬師寺の主要建物が焼失を受けたことが考えられる。

回廊の基壇
Foundation Platform of Kai-ro (Roofed Semi -Enclosed Corridor)

西面回廊の掘立柱塀の柱穴と礎石据付め石(南から)

案内図

1　発掘調査によって回廊は、数期の変遷があることがわかっている。

2　建物の構造は掘立柱塀から瓦葺き礎石建ちの回廊に建て替えられている。

3　瓦葺きの回廊は、柱が礎石上に建つ梁間4.15m(14尺)の単廊で、南北の桁行は柱間24間、総長102mという大規模なものである。

4　礎石は北面の講堂に取付く箇所で、一辺約75cm厚さ約42cmの凝灰岩切石が2個、梁間4.15m(14尺)の間隔で発見された。

5　基壇の高さは低く、外面に石積みなどの外装はない。

6　基壇の両側には、屋根からの雨を受ける溝(雨落ち溝)が設けられている。

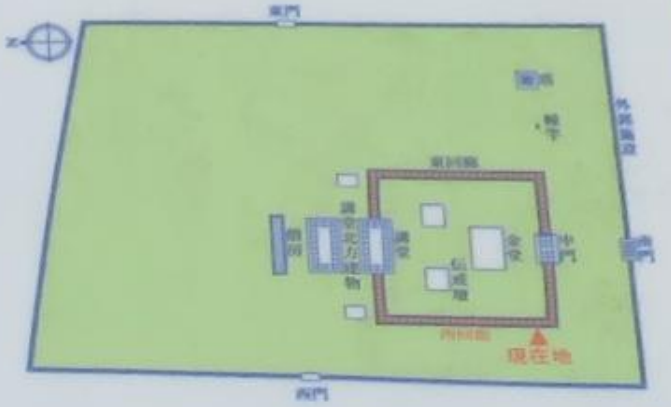
空から見た発掘調査時の西面回廊(西から)

北面回廊で見つかった当初の礎石

回廊の雨落ち溝

アップで見たところ

mi -Enclosed Corridor）



案内図

1　発掘調査によって回廊は、数期の変遷があることがわかっている。

2　建物の構造は掘立柱塀(ほったてばしらべい)から瓦葺(かわらぶ)き礎石(そせきだ)建ちの回廊に建て替えられている。

3　瓦葺きの回廊は、柱が礎石上に建つ梁間(はりま)4.15m(14尺)の単(たん)廊(ろう)で、南北の桁行(けたゆき)は柱間(はしらま)24間(けん)、総長102mという大規模なものである。

4　礎石は北面の講堂に取付く箇所で、一辺約75cm厚さ約42cmの凝灰岩切石(ぎょうかいがんきりいし)が2個、梁間(はりま)4.15m(14尺(しゃく))の間隔で発見された。

5　基壇の高さは低く、外面に石積みなどの外装(がいそう)はない。

6　基壇の両側には、屋根からの雨を受ける溝(雨落(あまお)ち溝(みぞ))が設けられている。

さて、前方が安国寺六角堂

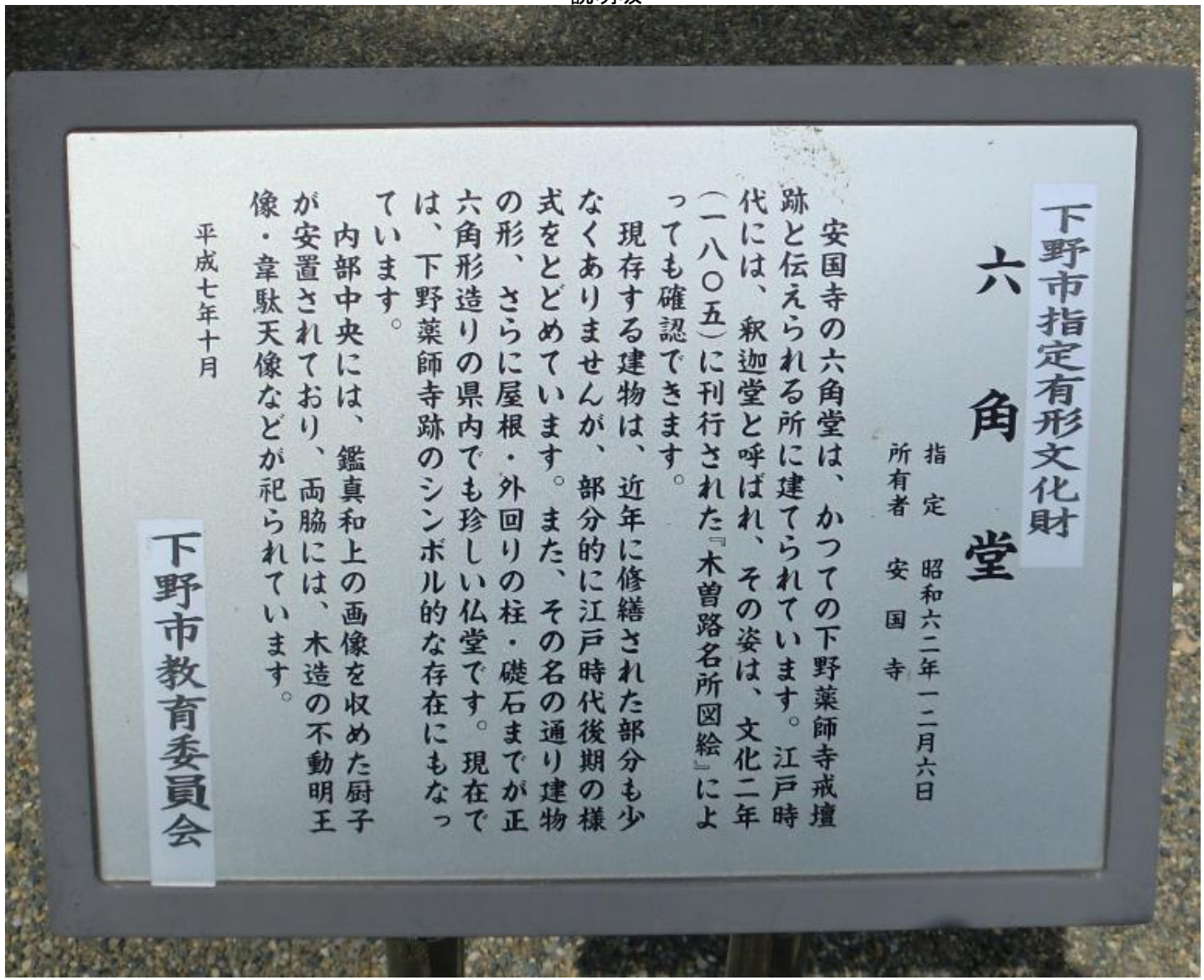
さまざまな石造物もある

この場所が戒壇堂跡とされる

「下野薬師寺戒壇院」と記された標柱が立つ

別の角度から

説明坂


下野市指定有形文化財
六角堂
指定　昭和六二年一二月六日
所有者　安国寺
安国寺の六角堂は、かつての下野薬師寺戒壇跡と伝えられる所に建てられています。江戸時代には、釈迦堂と呼ばれ、その姿は、文化二年（一八〇五）に刊行された『木曽路名所図絵』によっても確認できます。
現存する建物は、近年に修繕された部分も少なくありませんが、部分的に江戸時代後期の様式をとどめています。また、その名の通り建物の形、さらに屋根・外回りの柱・礎石までが正六角形造りの県内でも珍しい仏堂です。現在では、下野薬師寺跡のシンボル的な存在にもなっています。
内部中央には、鑑真和上の画像を収めた厨子が安置されており、両脇には、木造の不動明王像・韋駄天像などが祀られています。
平成七年十月
下野市教育委員会

江戸時代後期の様式と云う

るりお 尾寺

鑑真和上の画像を収めた厨子が見える

正面が復元された回廊建物の一部

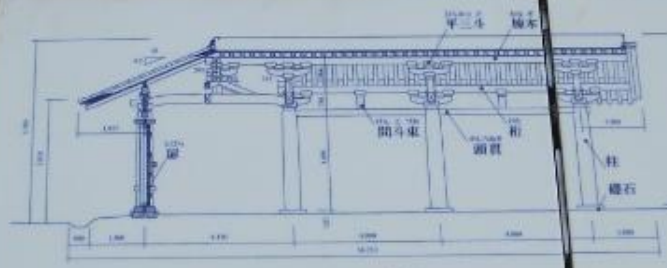
回廊建物の復元
Restoration of Kai-ro (Roofed Semi-Enclosed Corridor)

1 8世紀前半に建造されたと考えられる瓦葺き屋根の回廊建物を復元した。
2 架構・建物・軒の形式や各部細部寸法は、法隆寺西院回廊や中山田寺回廊の他、奈良時代の遺構にならった。
3 復元部分は、北西隅回廊の北2間・西3間で、北回廊西端間に扉口を設けた。
4 柱間寸法は、梁間4.15m、桁行4.08m～4.15m。
5 柱・梁などの木材は国産ヒノキを使用。柱直径 柱頂46.2cm 柱頭41.6cm、柱長3.09m。
6 架構は、虹梁上に、斗首、三斗組で繰木を受ける。組物は、平三斗、間斗束。
7 柱間装置は、内側柱間は吹き放し、外側柱間は上下長押間に連子窓、腰壁・小壁、壁は土塗・漆喰仕上。
8 塗装仕上は、軸部・組物等を弁柄塗、化粧垂板を胡粉塗、桁・桑木等の小口を黄土塗、窓連子を緑青塗とした。
9 屋根は、野地を土居葺、本瓦行基葺、四寸五分勾配。
10 建物の構造強度を確保するため、鉄筋コンクリート基礎とし、基礎内部から柱下部に直径12.5cm長さ1.15mのステンレス鋼材を埋め込んでいる。

北面回廊の礎石据付め石と礎石抜き跡（北西から）

案内図

下野薬師寺創建の瓦



復元設計図　桁行断面図

木材の加工の様子（やりがんな仕上げ）

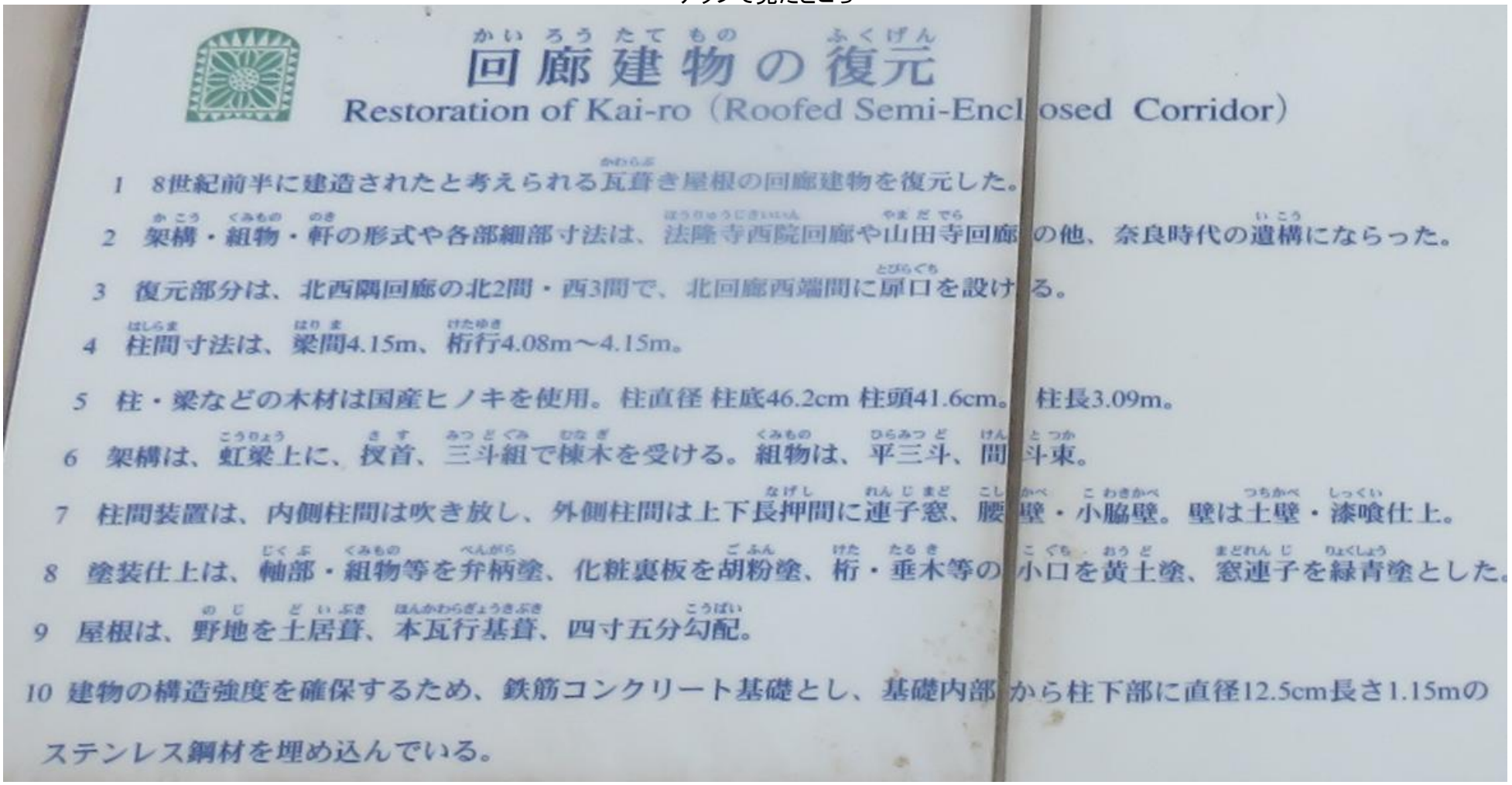
建物の組み立ての様子

復元設計図　梁間断面図

瓦葺きの様子

色塗りの様子（仕上げ）

アップで見たところ



回廊建物の復元
Restoration of Kai-ro (Roofed Semi-Enclosed Corridor)

1 8世紀前半に建造されたと考えられる瓦葺き屋根の回廊建物を復元した。

2 架構・組物・軒の形式や各部細部寸法は、法隆寺西院回廊や山田寺回廊の他、奈良時代の遺構にならった。

3 復元部分は、北西隅回廊の北2間・西3間で、北回廊西端間に扉口を設ける。

4 柱間寸法は、梁間4.15m、桁行4.08m～4.15m。

5 柱・梁などの木材は国産ヒノキを使用。柱直径 柱底46.2cm 柱頭41.6cm。 柱長3.09m。

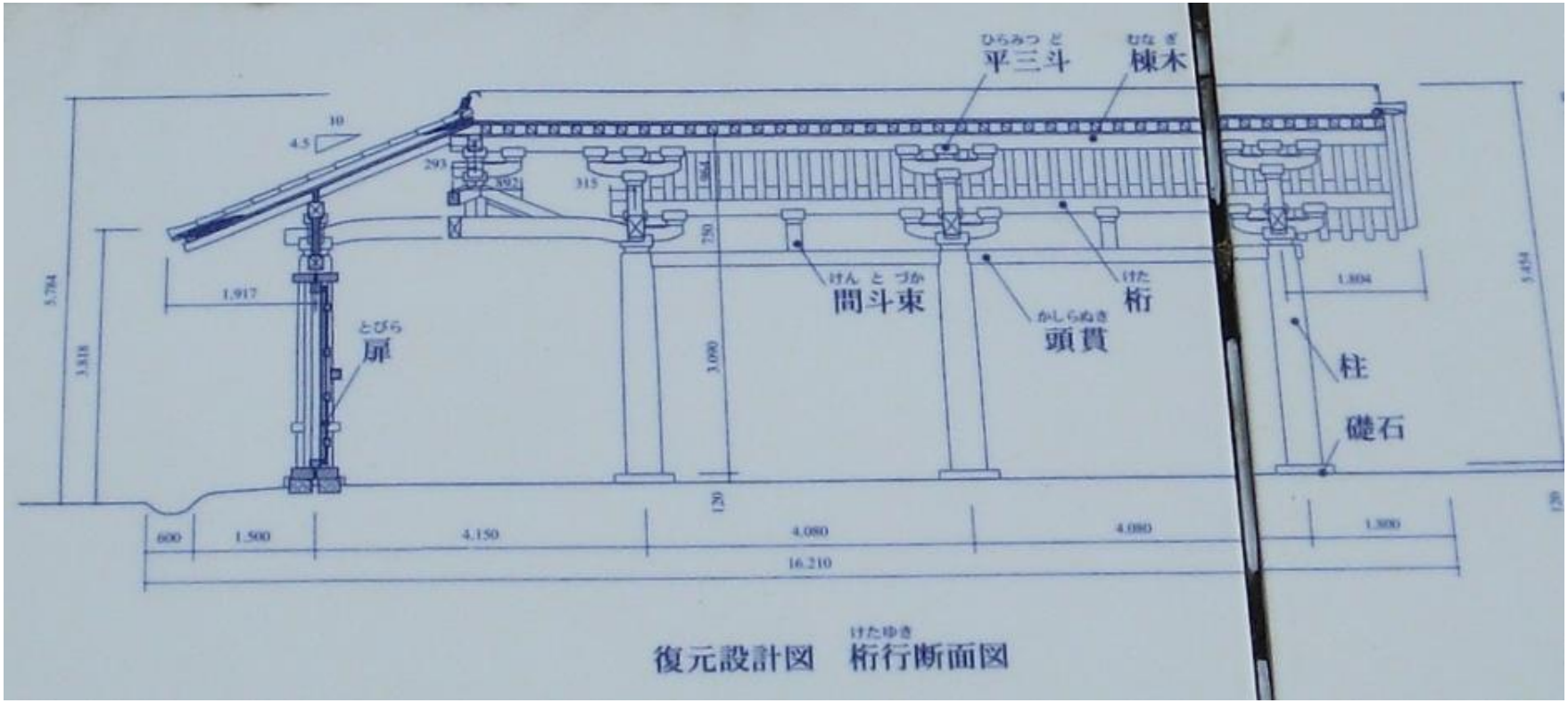
6 架構は、虹梁上に、枓首、三斗組で棟木を受ける。組物は、平三斗、間 斗束。

7 柱間装置は、内側柱間は吹き放し、外側柱間は上下長押間に連子窓、腰 壁・小脇壁。壁は土壁・漆喰仕上。

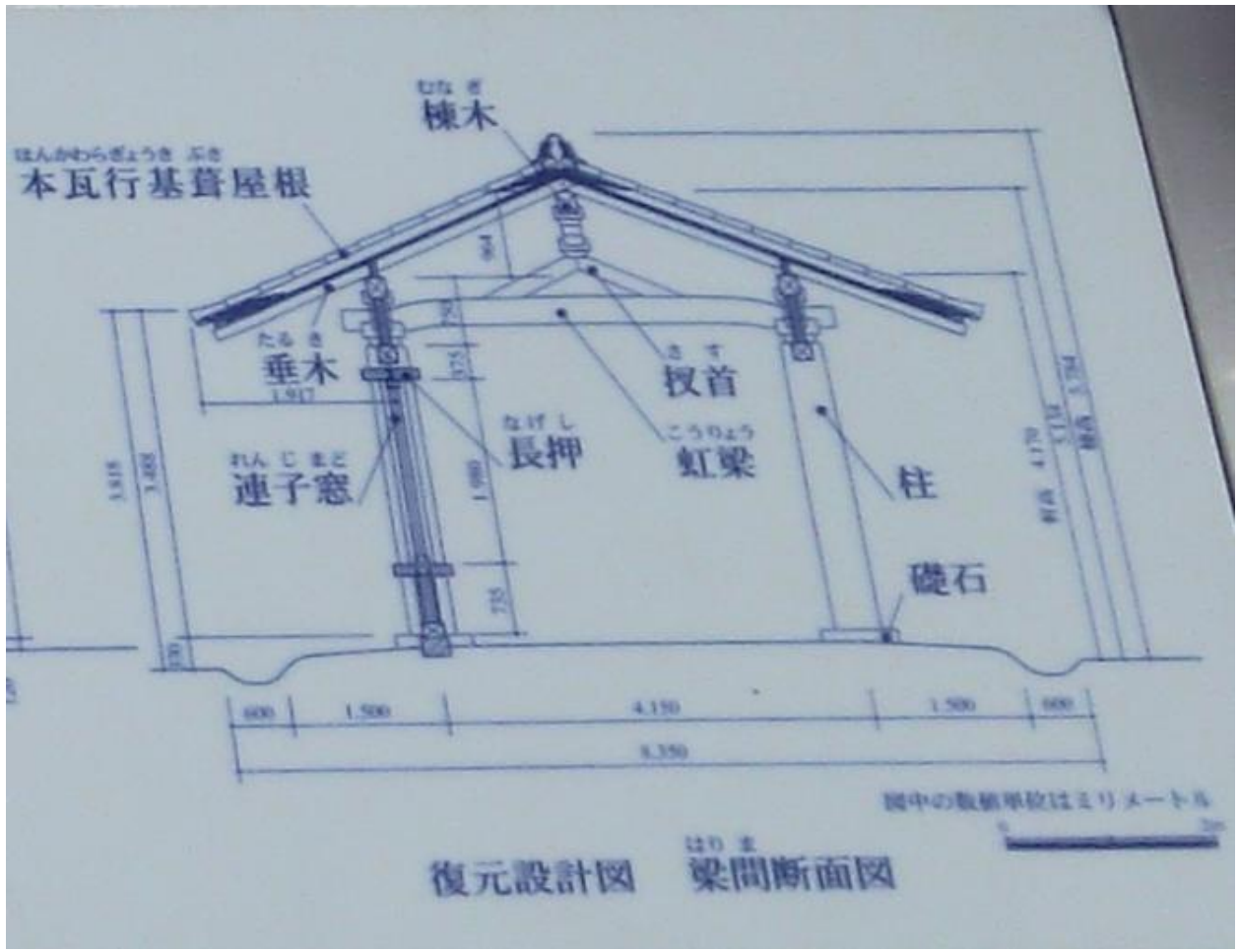
8 塗装仕上は、軸部・組物等を弁柄塗、化粧裏板を胡粉塗、桁・垂木等の 小口を黄土塗、窓連子を緑青塗とした。

9 屋根は、野地を土居葺、本瓦行基葺、四寸五分勾配。

10 建物の構造強度を確保するため、鉄筋コンクリート基礎とし、基礎内部 から柱下部に直径12.5cm長さ1.15mの ステンレス鋼材を埋め込んでいる。



復元設計図　桁行断面図（けたゆき）


棟木
本瓦行基葺屋根
垂木
扠首
長押
虹梁
連子窓
柱
礎石
600
1,500
4,150
1,500
600
8,350
図中の数値単位はミリメートル
0
2m
復元設計図　梁間断面図

前方は西回廊のライン

こんな塩梅

こちらは北回廊のライン

説明坂がある

この先は回廊が繋がる講堂跡

講堂跡
Remains of Ko-do (Lecture Hall)

1 基壇の大きさは、正面の長さ約38.4m(127尺)、側面の長さ約20 m(66尺)である。

2 建物の規模は、桁行(正面)九間 長さ33.6m(111尺)、梁行(側面)四 間 長さ約15m(50尺)の大きさと推定される。奈良薬師寺の講堂の大きさに近いことから、堂々 たる規模をもった寺院であったことがうかがわれる。

3 西側柱列と北面回廊に遺存する礎石の距離は、西面回廊の梁間 と同じである。

4 講堂と北面回廊の基壇の高低差は、約1mである。講堂と回廊は 階段で結ばれていたと推定される。

5 講堂基壇に上る石階段が、基壇正面(南辺)と背面(北辺)で確認さ れている。正面、背面とも建物中央間と両脇から二間目の3箇所で、柱間と同じ3.9m(13尺)幅の 石階段である。

6 基壇北縁外装の地覆石の付近から焼けた壁土や瓦・鉄片などが、 基壇を覆うように出土したことから、講堂が焼失したことが考えられる。

案内図

講堂跡と回廊の礎石

昭和48年発掘調査時写真
基壇の北辺地覆石列(東から)

昭和48年発掘調査時写真
講堂に西回廊が取付く箇所の瓦下瓦(南から)

講堂跡の南西角(南から)

アップで見たところ

講堂跡
Remains of Ko-do (Lecture Hall)

1　基壇の大きさは、正面の長さ約38.4m(127尺)、側面の長さ約20m(66尺)である。

2　建物の規模は、桁行(正面)九間 長さ33.6m(111尺)、梁行(側面)四間 長さ約15m(50尺)の大きさと推定される。奈良薬師寺の講堂の大きさに近いことから、堂々たる規模をもった寺院であったことがうかがわれる。

3　西側柱列と北面回廊に遺存する礎石の距離は、西面回廊の梁間と同じである。

4　講堂と北面回廊の基壇の高低差は、約1mである。講堂と回廊は階段で結ばれていたと推定される。

5　講堂基壇に上る石階段が、基壇正面(南辺)と背面(北辺)で確認されている。正面、背面とも建物中央間と両脇から二間目の3箇所で、柱間と同じ3.9m(13尺)幅の石階段である。

6　基壇北縁外装の地覆石の付近から焼けた壁土や瓦・鉄片などが、基壇を覆うように出土したことから、講堂が焼失したことが考えられる。

講堂跡から北回廊跡及び北西角部分の復元回廊建物を見たところ

礎石を見たところ

講堂跡後方か安国寺六角堂を見たところ

史跡に指定された地域は、むやみに現状変更できない

国指定史跡 下野薬師寺跡

大正十年三月三日に下野薬師寺跡として国の史跡に指定されています。

左図の範囲内で※現状変更を行う場合は文化財保護法の規定により、事前の申請が必要となります。

※現状変更とは、建物や塀の新築・増改築・取り壊し、樹木の植栽・伐採、宅地造成、道路・上下水道工事などの開発行為を行うことをさします。（問合わせ先　文化課 五二―一一二〇）

下野市教育委員会

下野薬師寺跡 全体図

―国指定範囲

上図の赤い矢印の方向を見たところ/この地点の辺りが回廊の北東角部分に当るようだ

赤い矢印の右斜め前方を見たところ

赤い矢印の左斜め前方を見る

さて、ここは寺域の東回廊跡の東側のエリア/左手に赤い柱、右手に一寸したマウンドが見える

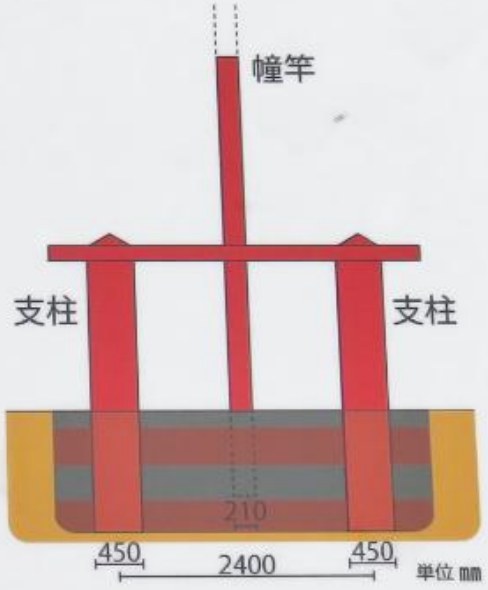
これは幢竿跡

幢竿跡（どうかんあと　DOUKAN-ATO）

flag pole

再建の塔と東回廊の中間には、仏教行事を荘厳に飾るための幡をかかげる幢竿が置かれました。
幢竿の支柱規模が大きいことから、当時は高さ 9m程度の幢竿が建てられたと考えられます。

幡をかかげた幢竿のイメージ CG



復元した幢竿の規模

※９mの高さで復元すると危険なため3.6mで表示しました。

別の角度から

こちらのマウンドは再建の塔跡

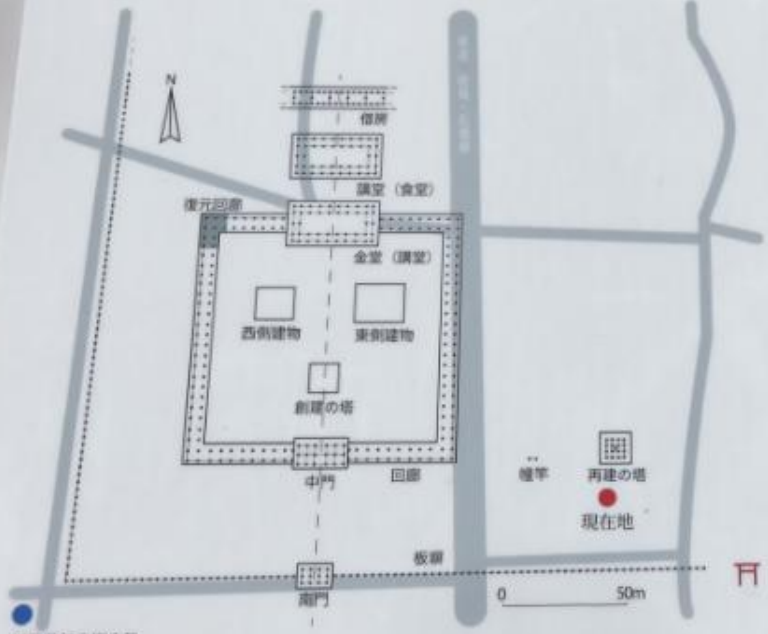
再建の塔跡（さいけんのとうあと　SAIKENNOTOU-ATO）

reconstruction pagoda

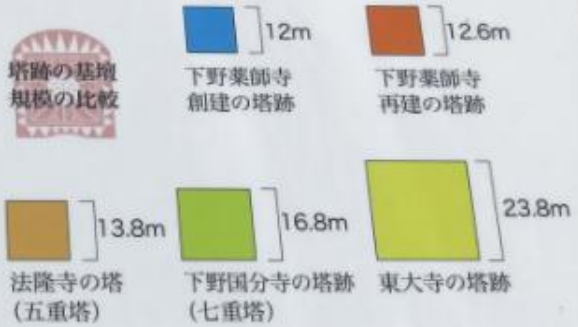
伽藍中央部にあった創建の塔の焼失により、9 世紀後半に伽藍東部に基壇規模 1 辺 12.6mの塔が再建されました。

再建された塔は、現存する法隆寺五重塔（高さ 31.5m）の基壇（1 辺 13.8m）と規模が類似することから、同規模の五重塔であったと考えられます。

発掘調査の成果に基づき、凝灰岩の切石を使用して基壇と階段の規模を表示しました。



下野薬師寺跡位置図



南から見た再建の塔と鐘楼（イメージ CG）

別の角度から

左手を見るとこんなものが

東金堂とあるが・・・

反対側から見たところ

こんな塩梅

さて、ここが安国寺

標柱に「史跡　下野薬師寺跡」とある

さまざまな石造物がある

こちらは下野薬師寺伽藍礎石

下野市
指定有形文化財
下野薬師寺伽藍礎石
指定　昭和六十年十二月六日
所有者　安国寺
この礎石は民家の人が東塔跡付近から掘り出されたものと言われており、どの堂塔の礎石か明らかではありません。
礎石面の中心にみられる円形状の穴は、ほぞ穴で柱根に出ほぞを造り、ここにはめ込んであったものと推定されます。凝灰石製とみられるこの形式の礎石は、白鳳時代に盛行したものと言われています。
隆盛期の下野薬師寺の壮大な伽藍も現今ではわずかに礎石と基壇などが残っているだけで、往時を再現する手がかりとして貴重な資料の一つにもなっています。
昭和六十一年九月

白鳳期の礎石と云う

安国寺（あんこくじ）

安国寺は暦応二年（一三三九）、足利尊氏が古代の国分寺にならって全国に安国寺を建立した際、下野国には薬師寺が存在するところから安国寺を建てることなく、そのまま安国寺と寺名改称したと伝えられている。

当時はまだ下野薬師寺の伽藍配置が姿を留めていたと考えられるが、元亀元年（一五七〇）に北条氏政の兵火によりその大半が焼失したと伝えられている。

現在は、真言宗の寺院で薬師如来を本尊とする。その境内は、七世紀後半に創建された日本三戒壇の一つとして知られる史跡下野薬師寺跡の中枢部に位置しており、白鳳文化の香りを現在に伝えている。

現在の本堂は明治三八年に再建されたもので、近世以前の建物は六角堂と山門の一部を残すのみである。

平成八年三月

安国寺の境内西側に、こんなマウンドが残っている

土塁の名残りのような雰囲気ではあるが・・・

さて、ここは近くにある龍興寺/これは山門/下野薬師寺の別院と云う

本堂

左手を見ると説明坂と「史跡　道鏡塚」と記された標柱が立っている/手前には礎石が並んでいる

礎石

古代日本の建築様式は、竪穴式住居が主であったが、西暦五三八年に、朝鮮百済から仏教が伝来し、五八八年、最初の本格的仏教寺院である、飛鳥寺（法興寺・元興寺）建立時に基礎石が用いられ、その様式が現在まで継承されており、堂塔伽藍を建立するための土台基礎石である。

この寺の創建当初（奈良時代）の礎石から現本堂（江戸時代）の長い歴史の中で、使用されてきた礎石が一列に並び、円柱や方柱、中には六角柱の柱形状であったものが確認できるものや、石面が剥れ、火災の痕跡の残るものなどがあり、寺の栄枯盛衰、悠遠長久なる歴史に思いが馳せられる。

道鏡禅師の墓所

奈良時代の高僧、道鏡禅師の墓所（道鏡塚）が当所です。

道鏡は若くして出家し、葛城山で厳しい修行をし、義淵、良弁から法相を学び、梵文と写経に通じ、如意輪法・宿曜法、併せて、薬法や医術にも精通された高徳の僧です。

天平勝宝年間、宮中内道場の看病禅師となりました。そして、孝謙上皇の病を療治した功績により、天平宝字七年（七六三）、少僧都に任じられました。

次の年に恵美押勝（藤原仲麻呂）の乱が起き、道鏡は上皇から大臣禅師に任じられ、乱に勝利した孝謙上皇は、重祚して称徳天皇となりました。新しい政治を進めようとする天皇により、天平神護元年（七六五）、道鏡は太政大臣禅師に引き立てられ、さらに翌年、天皇に准ずる待遇の法王に任命されました。

禅師、宮中に奉職すること十余年、多くの功績を上げましたが、宝亀元年（七七〇）八月四日、称徳天皇が崩御されますと、同年八月二十一日、造下野国薬師寺別当職（長官）に任じられ、平城の都から遣東されました。

禅師は、下野薬師寺に着任後も、各地で積極的に巡錫や親教をし、多くの人々を教化されましたが、宝亀三年（七七二）四月七日、日本三戒壇の一寺であるこの聖地から、天皇のご冥福と、すべての人々の幸せを祈りながら、静かに遷化されました。

人々は、これを深く哀しみ、禅師の徳を偲び、すでにあったこの円墳を墓標として、手厚く葬りました。

私たちは、真実の歴史を探究してこられた先達に敬意を表し、その意志を受け継ぎ、道鏡禅師の更なる顕正をめざしています。

平成二十九年（二〇一七）四月七日

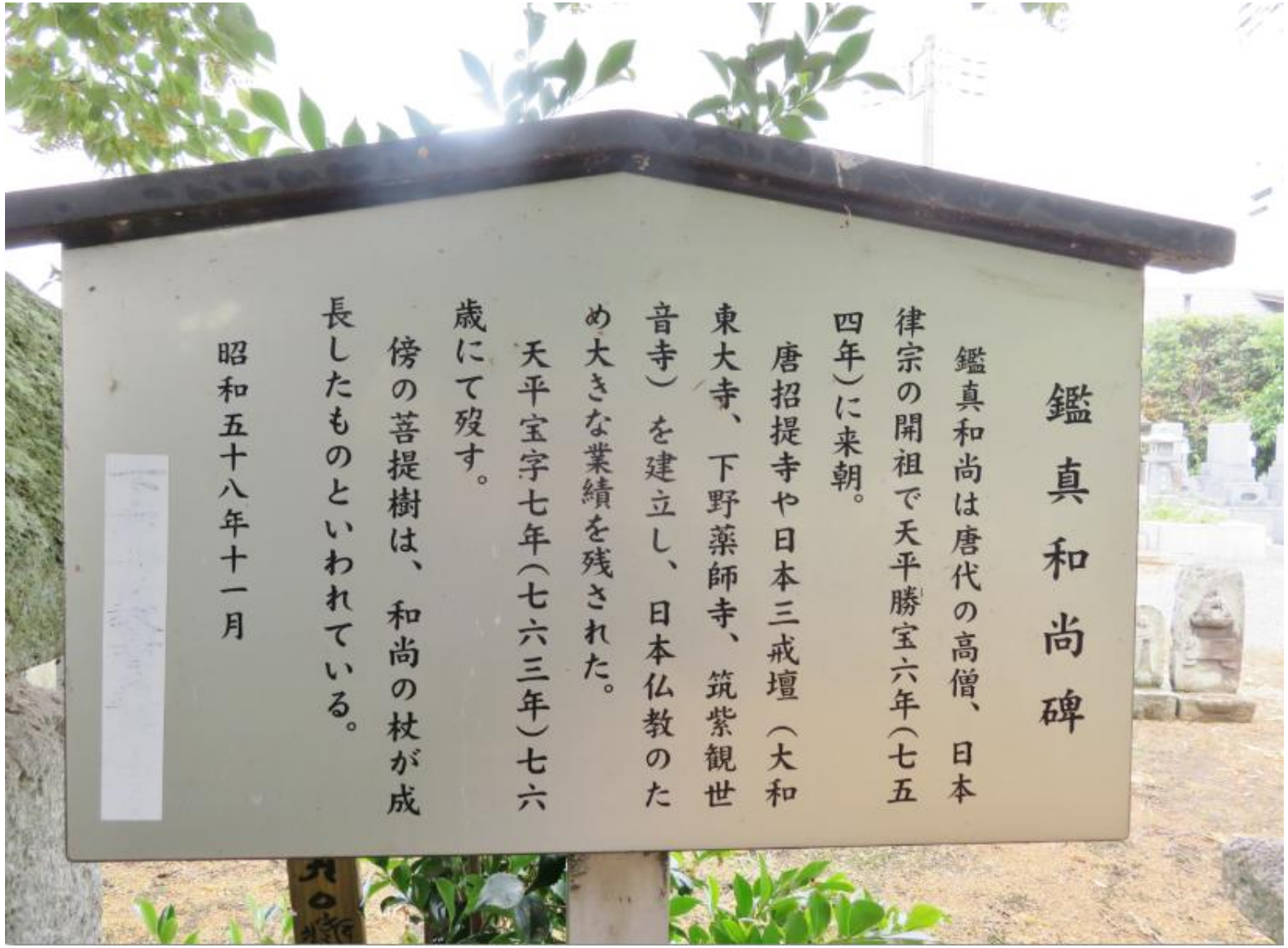
龍興寺

道鏡を守る会

これが背後にある道鏡塚/円墳/発掘調査の結果、6世紀末の古墳と推定されたということで、どうも道鏡の時代とは合わない

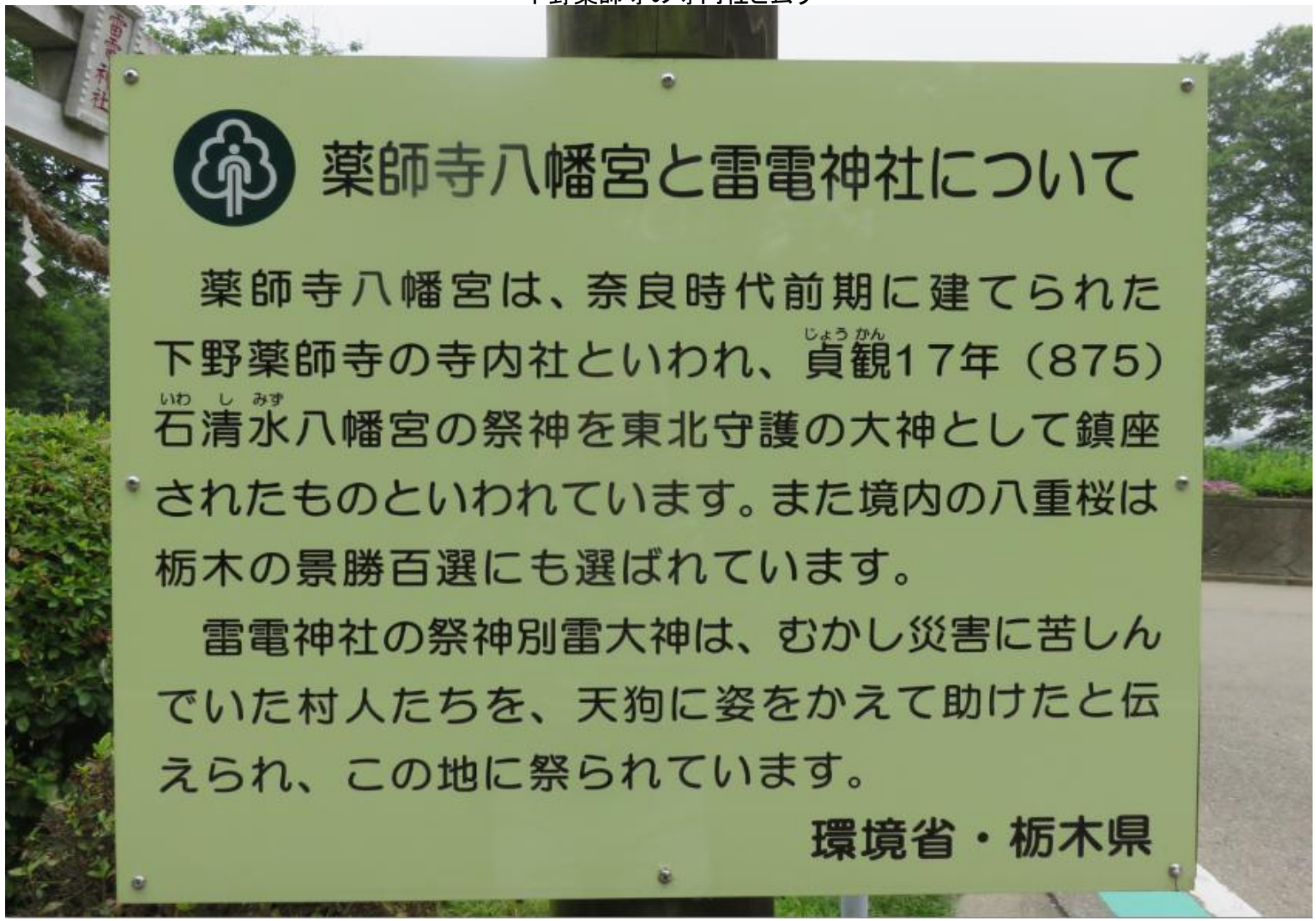
境内の墓地には鑑真和上碑（中央）が立つ

「鑑真大和上」と刻まれているようだ


鑑真和尚碑
鑑真和尚は唐代の高僧、日本律宗の開祖で天平勝宝六年(七五四年)に来朝。
唐招提寺や日本三戒壇(大和東大寺、下野薬師寺、筑紫観世音寺)を建立し、日本仏教のため大きな業績を残された。
天平宝字七年(七六三年)七六歳にて歿す。
傍の菩提樹は、和尚の杖が成長したものといわれている。
昭和五十八年十一月

さて、ここも近くにある薬師寺八幡宮

下野薬師寺の寺内社と云う



その背後にもこのような土塁跡と思われるマウンドがあった

境内の外から見たところ/境内を取り巻くように続いている

参考ホームページ

https://www.city.shimotsuke.lg.jp/0393/info-0000000641-1.html

https://4travel.jp/travelogue/10522847

https://tamalotus2.exblog.jp/27597264/

https://www.ensenji.or.jp/blog/4530/

https://ameblo.jp/zero10932/entry-12392139793.html

https://blogs.yahoo.co.jp/seisyobou/40194162.html?_ysp=5LiL6YeO6Jas5bir5a%2B66Leh

https://kazusankm2.exblog.jp/26081702/

https://blog.goo.ne.jp/tetsuda n/e/bb55d251bf7c0efbbdbe44a6ac475ded

https://s.webry.info/sp/09270927.at.webry.info/201704/article_1.html

https://tamalotus2.exblog.jp/27608444/

https://tochigi-burg.com/doukyo.htm

http://kofuntokaare.main.jp/5goufun/page202.html

石橋第三工業団地
東プレ
坂上小
文
自治医科大
文
みのわ古城公園
まほろばの里
下野市
薬師寺
薬師寺南
小金井北
吉田東小
田川
N